

佳作

理解と支えの大切さ

埼玉県立伊奈学園中学校 2年

山岸 未幸

私が小学校に通っていたころ、特別支援学級の先生が学校に来て、障害者について話をしてくれる機会がありました。その日は、私たちのクラス全員が体育館に集められ、特別支援学級の生徒たちも一緒に参加しました。初めての経験で、少し緊張していましたが、同時にたくさんの興味もありました。

体育館に入ると、先生が笑顔で迎えてくれました。先生は自分の名前を名乗り障害者についての基本的な知識を教えてくださいました。障害者にはさまざまな種類があり、身体的な障害、知的な障害、発達障害などがあることを説明してくれました。特に印象に残ったのは、障害を持つ人々がどのように日常生活を送っているのか、そして彼らが直面する困難についての話でした。

その後、特別支援学級の生徒たちが自分たちの体験を語る時間が設けられました。最初に話をしてくれたのは、車椅子を使っている男の子でした。彼は、自分がどのようにして学校に通っているのか、友達と遊ぶときにどんな工夫をしているのかを話してくれました。彼の話を知っていると、彼がどれだけ努力しているのかが伝わってきました。彼は「車椅子でもできることはたくさんある」と言い、自分の好きなスポーツや趣味についても話してくれました。その姿勢に、私は感銘を受けました。

この体験を通して、これから障害者と関わる上で大切なことは「相手への共感」と「配慮とサポート」の二つだと感じました。

まず「相手への共感」では、障害を持つ方々の生活や思いを理解するためには、彼らに耳を傾けることが不可欠だと思います。彼らが直面している困難や日常生活での工夫を知ることで、私たち自身の視野が広がります。共感することで、彼らの気持ちに寄りそい、より良い関係を築くことができると考えます。障害者の方々の経験を理解することは、私たちが持つ先入観や偏見を取り除く手助けにもなります。

次に、「配慮とサポート」が大切です。障害を持つ方々が快適に過ごせるように、私たちができる配慮を考えることが必要です。具体的には、公共の場でのバリアフリーの重要性を理解し、必要なサポートを提供することが求められます。移動の際に手助けをしたり、必要な情報をわかりやすく伝えたりすることで、彼らが自立して生活できる環境を整える手助けができると思います。また、障害についての正しい知識を持つことは、私たち自身の理解を深めるだけでなく、周囲の人々にも影響を与えることができます。

このように、障害者と関わる際は、相手を尊重し、配慮を持って接するという、当たり前のコミュニケーションが大切です。相手の意見をしっかりと聞く姿勢を持つことが、差別や不便のない社会への一歩だと思います。